

「謡曲引歌索引」凡例

(2025年3月31日最終更新 中野顕正・浅井美峰・川上一)

本表は、謡曲中の引歌を網羅した索引を作成するための基礎データとして作成したものである。謡曲中の引歌を網羅整理した研究成果としては、早くに佐成謙太郎「謡曲引歌考」(『謡曲大観』首巻所収)がある。本表はこれを基盤としつつ、その後の注釈等における指摘をも適宜増補する形で作成したものである。

現状公開しているものは、あくまで現時点での暫定版に過ぎない。誤字脱字等の確認に加え、底本選定や他出情報等、今後修正・増補すべき点は多岐にわたるが、能・謡曲研究のための参考資料として供すべく、仮公開に至ったものである。本表を研究利用するに際しては一切利用者の自己責任によるものとし、本表制作者はその責任を負わないものとする。利用に際してはこの点に留意されたい。

【用例蒐集方法について】

本表は、謡曲作品中に含まれる引歌の索引である。作成にあたっては、佐成謙太郎『謡曲大観』の引歌索引にあたる「謡曲引歌考」(首巻所収)を基盤とした。従って、『謡曲大観』が現行詞章に基づき現行曲全曲を収録していることに伴い、本表もまた、現行曲中における引歌の索引としての性格を有するものと理解されたい。

なお、『謡曲大観』刊行後の研究の進展によって、本歌・参考歌の認定に進展や変化のあった事例も少なくないことから、『謡曲大観』に採られていない用例についても、その後の注釈書等で指摘のあるものについては漸次用例を増補することとした。現時点では、新潮日本古典集成『謡曲集』の頭注に掲出されている本歌・参考歌等についての増補作業が終了している。但し同書所収曲のうち、番外曲である《朝顔》《鶉羽》の2曲については、用例蒐集対象からひとまず除外した。

今後、日本古典文学大系『謡曲集』、新編日本古典文学全集『謡曲集』等についても用例増補の対象とする予定である。

【表の見方】

- A列「典拠分類(暫定版)」
- B列「典拠分類細目(暫定版)」
- C列「典拠(暫定版)」
- D列「他出(暫定版)」

佐成謙太郎「謡曲引歌考」において示された典拠歌集名およびその分類・細目、ならびに他出を掲出した。「謡曲引歌考」未収分についても、「謡曲引歌考」の典拠認定方法を準用する形で典拠を示した(但し新たに、典拠分類「9 雑」中に細目「6 連歌」項を設けた)。

なお、分類・細目は下記の通りである。

- 1 上代歌
- 2 勅撰集一（01古今）
- 3 勅撰集二（02後撰～07千載）
- 4 勅撰集三（08新古今）
- 5 勅撰集四（09新勅撰～21新続古今、新葉）
- 6 物語類
- 7 私撰・家集類
 - 1 私撰集
 - 2 歌学類
 - 3 家集類
 - 4 百首類
- 8 史伝・軍記類
 - 1 史伝
 - 2 軍記類
 - 3 仏書
- 9 雑
 - 1 拾葉抄所引雑書
 - 2 出典未詳古歌
 - 3 作者未詳古歌と思はるるもの
 - 4 新作と思はれるもの
 - 5 原歌未詳のもの
 - 6 連歌

※典拠の再比定、他出の網羅的掲出等については、後日の課題とする。

●E列「和歌本文（暫定版）」

佐成謙太郎「謡曲引歌考」において示された和歌本文を掲出した。「謡曲引歌考」未収分についても、概ね参照元（現状では新潮日本古典集成『謡曲集』のみ）に則った。

※底本を再検討し、表記を改めることについては、後日の課題とする。

●F列「初句よみ」

E列に示した和歌本文に基づき、初句を平仮名で表記した。仮名遣いは歴史的仮名遣いをを用い、濁点は付さなかった。

●G列「謡曲曲名」

●H列「謡曲曲名よみ」

謡曲の曲名を示した。曲名表示は佐成謙太郎『謡曲大観』のものに従い、よみは現代仮名遣いによった。なお『謡曲大観』の曲名表示は、原則として観世、宝生、金春、金剛、喜多の優先順位となっている。

● I 列「謡曲本文（暫定版）」

引歌箇所の謡曲本文を示した。本文は「謡曲引歌考」により、「謡曲引歌考」未収分についても、概ね参照元（現状では新潮日本古典集成『謡曲集』のみ）に則った。

※底本を再検討し、表記や句読点の付しかた等を改めることについては、後日の課題とする。

● J 列「備考」

「謡曲引歌考」未収分につき、本表に増補した旨を示した。その他、特記すべき事項等あるものについてはその旨を記した。

● K 列「大観当該箇所」

当該謡曲詞章の、『謡曲大観』中における頁・行数を示した。たとえば「1234_01」は1234頁の1行目であることを表す。行数の認定に際しては、大字で表示された本文のみを行数に数え、小字で表示された演出注記や底本にない台詞（間狂言、着キゼリフ等）は行数に数えなかった。但し例外として、〔カケリ〕〔イロエ〕等の働き事の表示については1行として数えた。

なお、『謡曲大観』の頁数は各巻通算となっており、第一巻はpp. 1～730、第二巻はpp. 731～1420、第三巻はpp. 1421～2130、第四巻はpp. 2131～2820、第五巻はpp. 2821～3257に相当する。

● L 列「大系当該箇所」

当該謡曲詞章の、日本古典文学大系『謡曲集』中における頁・行数を示した。たとえば「1_123_01」は上巻123頁1行目であることを表す（冒頭の1は上巻、2は下巻を表す）。割注の形で演出注記等が記されている箇所も1行として数えた。

また下巻303頁以降の「その他の能」については2段組であることから、上下段の別を示した（aは上段、bは下段を表す）。たとえば「2_321a06」は下巻321頁6行目であることを表す。

なお、たとえば下巻318頁には同一頁内に《巴》終曲部と《野宮》冒頭部が載り、《野宮》の4行目は全体としては13行目にあたるが、《野宮》の4行目についても「2_318a04」のように表示し、行数は当該曲の冒頭部から起算する形で表示した。

● M 列「大系小段番号」

● N 列「大系小段名」

当該謡曲詞章の、日本古典文学大系『謡曲集』中における小段名を示し、併せて小段番号を付した。当該詞章が二つの小段にまたがっている場合、初めの小段のみを示した。小段番号については、たとえば「2-3」は第2段中の3番目の小段であることを示す。

なお、たとえば日本古典文学大系『謡曲集』の《砧》第1段を見てみると、底本（堀池識語本）の〔名ノリ〕・〔問答〕を示した後、喜多流本文の〔次第〕・〔名ノリ〕を示し、その後に底本の〔上げ哥〕、底本になく現行上掛り本文によって補った〔着キゼリフ〕、底本の〔□〕の順に本文が示されている。本表では、このうち底本（堀池識語本）の〔名ノ

リ]・[問答] を1・2、喜多流本文の [次第]・[名ノリ] を3・4、[上ゲ哥] を5、[着キゼリフ] を6、[□] を7と示した。

● O列「集成小段番号」

● P列「集成小段名」

当該謡曲詞章の、新潮日本古典集成『謡曲集』中における小段名を示し、併せて小段番号を付した。小段番号の付与方法はM列「旧大系小段番号」の場合と同様である。

【付記】

本表は、以下の研究課題の成果の一部である。

(1) **科学研究費助成事業**

● 基盤研究(A)「能の「ことば」の包括的・領域横断的研究に向けたオンライン・リソース構築」

2021～24年度、研究代表者・山中玲子、課題番号21H04350

(2) **法政大学能楽研究所『能楽の国際・学際的研究拠点』公募型共同研究**

● 「謡曲における和歌・連歌表現の用例データベース構築」

2019年度、研究代表者・川上一

● 「和歌・連歌との比較を通じた謡曲修辞技法の学際的研究」

2020年度、研究代表者・浅井美峰

● 「世阿弥協能を中心とした謡曲詞章の和歌・連歌的研究手法に基づく表現分析」

2022年度、研究代表者・中野顕正

● 「「新纂謡曲引歌考」の作成と謡曲における歌枕撰取の研究」

2023～24年度、研究代表者・中野顕正